

## 県立名護養護学校に捧ぐ

作詞 金城 順亮

(県教育庁学校指導課主幹)

作曲 芳澤 江美子

(県立那覇養護学校教諭)

作詞するにあたって

県立名護養護学校への夢はふくらむ。

学校の建設作業が開始されたのは昭和五十年。

この年は、祖国復帰記念三大事業のしめくりとしての沖縄国際海洋博覧会開催年でもある。

その国際海洋博覧会沖縄館のテーマが「海やかりゆし」であり、このことは、真に意義深いものなので校歌の中に生かしてみた。

歌詞について

### 『たかさぐ』

これは県魚であり、小さな魚ながらも容姿はすこぶる端麗である。また、この魚は、決して単独行動をせずに絶えず群れを成して行動する様子は実に見事である。また高砂という謡曲は祝いごとの一進物である。

### 『リュウキュウクロマツ』

三番に挿入した「黒松」はリュウキュウクロマツを意味し、これは県木である。常緑喬木で高さ二十米にも及ぶ大木である。

常に大地にどかっと根を張って大空にのびる枝振りは、また見事である。

この木も祝いごとにひき出される銘木である。

### 『やぐら』

これは県花であり、五月の青空にくっきりと深紅に咲き染めるさまは、南国の情熱そのものである。

命に情熱を打ちこんで人生を歩むことは、何はさておいても大事なことである。

情熱を燃やし続け、常に微笑みを忘れずに、円やかな道をひたむきに進みたいものである。

むすび

この歌詞が生活单元の中で、教材として生かされることも配慮して作詞した。

因みに、「ひらがな五十音」は二字(えふ)を除いてすべて挿入してあり文字学習に活用されることを望むものである。

また一番は、朝を象徴し、二番は昼、三番は夕方を表現したつもりで、一日の生活のリズムを表現してみた。